

出西ビオトープについて

吉 田 薫

1. 出西地区ビオトープの長短

出西地区ビオトープ（元水田）について、現地見学及び聞取調査により次のような感想をもった。

○長所

- ・少ない労力で水面が保持されている。
- ・水域に深浅があり、渇水期でも残水域が確保できる。
- ・水を張ることにより、陸生の雑草が著しく減少している。

（写真-1 → 写真-2 への変化）

等

○短所

- ・外来種であるアメリカザリガニが主体で、他の生物が著しく少ない。
（アメリカザリガニが支配する環境は、生物専門のメンバーの調査意欲を著しく減退させたようだ。）
- ・水の腐食対策として、年に数回の水替えを行う必要がある。
- ・当ビオトープは、上流においてポンプにより汲み上げられた水を取水している。したがって、水生生物の流下は期待できない。

等



写真-1. 湛水化1年目



写真-2. 湛水化2年目

<ビオトープ池及び周辺で見られた生物>



写真-3. アメリカザリガニ・成体



写真-4. アメリカザリガニ・幼生



写真-5. シオカラトンボ、ヌマガエル



写真-6. イナゴ



(参考) イナゴの佃煮と脚のオイル揚げ

2. アメリカザリガニ対策

したがって、当ビオトープにおける当面の課題としては、アメリカザリガニ対策が挙げられる。試案だが、食欲旺盛でなんでも食べる印象のあるナマズを使ってみてはどうか。ネットで両者の関係を調べると、ナマズがアメリカザリガニを捕食する動画もあるようだ。体の大きさの相互関係や環境条件が影響するだろうが、実験する価値はあると思われる。

3. 周辺水域とのつながり

当ビオトープではポンプを経由した取水が行われており、自然水域→用水路→ビオトープ（元水田）というつながりはない。

自然水域とつながっていれば、コンクリート水路やそこを経由した水田においても、多種類の生物が見られるようになる。平常時においては上流から幼魚が流されて来、産卵期には下流より成魚が遡上する。

以下、コンクリート水路（出雲市内別箇所）の状況と、水路及び水田で見られた生物を写真で示す。概ね、大きい魚（≒大型魚、成魚）は遡上、小さい魚（≒小型魚、幼魚）は流下してくるようである。

<コンクリート水路>



写真-7. コンクリート水路・平常時



写真-8. コンクリート水路・洪水時(2021.07)



写真-9. モクズガニ



写真-10. ドジョウ



写真-11. ドンコ?



写真-12. ニゴイ?



写真-13. メダカ



写真-14. ナマズ・60 cm大 (2m 幅水路)



写真-15. コイ・60 cm大 (2m 幅水路, 2019. 05)



写真-16. コイが産卵期に目指す樋管・小水路

<水田 (取水口付近) >



写真-17. 水田の取水口



写真-18. アマガエル



写真-19. オタマジャクシ (カエル幼生)



写真-20. タニシ類



写真-21. ミズカマキリ



写真-22. ヤゴ (トンボ幼虫)、
ハヤ (カワムツ?)

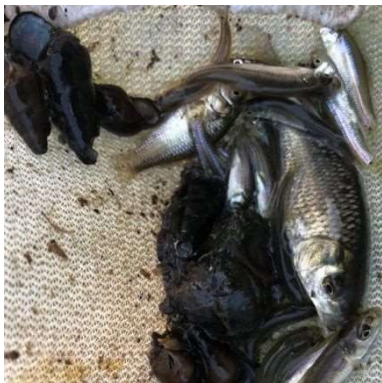


写真-23. カワニナ、タニシ類、
コイ、フナ、ハヤ (カワムツ?)



写真-24. カマツカ?



写真-25. ヌマエビ類、
ハヤ (カワムツ?)

4. コウノトリとの関係

前述の小動物は、いずれもコウノトリの食餌となる。10月9日の現地調査で、泉谷ビオトープ (大東町) から出西ビオトープ (斐川町) に移動する際に加茂町で見たコウノトリの採餌の様子を示す。また、参考までにアオサギの採餌の様子を示す。いずれも稲刈り直後なので、イナゴを捕食していると思われる。



写真-26. コウノトリの採餌の様子



写真-27. アオサギの採餌の様子